

# 令和7(2025)年度 自己点検・評価 チェックシート

プログラム名	AI副専攻(AI活用エキスパートコース)
--------	----------------------

評価項目	評価内容
①授業科目ごとに、単位付与方針を定め、公表しているか。	<p>【AI副専攻(AI活用エキスパートコース)】                      当該プログラムの修了要件は、コースカリキュラムの中の下記に示す特定科目の単位修得(12単位)などの要件を満たすことと定め、ウェブページで公表している。                      ・「人工知能基礎」「データサイエンス基礎」「情報技法基礎」「プログラミング基礎」「人工知能技術と社会」「人工知能実践プロジェクト」は必修科目と定める(7単位)。                      ・「サービスデザイン」または「メディアデザイン」はどちらか一方を必ず履修する選択必修科目と定める(1単位)。                      ・「機械学習活用1」および「機械学習活用2」、または「データサイエンス活用1」および「データサイエンス活用2」はどちらか一方を必ず履修する選択必修科目と定める(2単位)。                      ・「情報技法発展A」「情報技法発展B」「情報技法発展C」「プログラミング発展A」「プログラミング発展B」のうち2科目を履修する選択科目と定める(2単位)。</p> <p>各科目の単位付与要件は全学共通の方針に則り、「出席数が2/3以上であり、所定の提出課題等の合計得点が60点以上」と定め、ウェブページで公表している。</p>
②プログラムで、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	<p>【AI副専攻(AI活用エキスパートコース)】                      教育課程の編成方針は「所属する主専攻で学んだ専門知識とAI活用力を使って、変化し続ける社会の中で、様々な困難な課題を解決し、より良い未来を作り出すことのできる人材の育成」と定め、また実施方針は「AIを活用するために、AIによって変化する社会の展望、AIを使ったサービスの構想、実現のためのプログラミングやメディアの知識、様々な関係者の理解と協力を得るための情報技法を、実践的な授業を通じて身につける」と定め、ウェブページで公表している。</p> <p>なお、前記の通り定めた本プログラムの教育課程の編成と実施方針は、数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムのモデルカリキュラム(応用基礎レベル)とも整合することを付記する。</p>
③教育課程の編成・実施方針に基づき授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	<p>【AI副専攻(AI活用エキスパートコース)】                      当該プログラムにおいては、前記の教育課程の編成と実施方針に基づき前記の科目を配置しており、ふさわしい教育内容の設定となっている。また、このコース自体が、AI活用人材の育成を主眼としたものであり、学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成するための教育の実施である。</p>
④授業内外の学生の学習を活性化し効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	<p>【AI副専攻(AI活用エキスパートコース)】                      シラバスの内容(授業の目的、到達目標、授業準備のための指示、成績評価方法及び基準等の明示)を記載して公開している。シラバスの内容を充実させるための措置として、各回の学生の活動内容や予習及び復習の内容を予め詳述している。学生の主体的参加を促す授業形態として同時双方向型のオンライン授業を実施し、授業内容としては学生に関心の高いデータサイエンスや人工知能の内容を取り入れ、そして授業方法としては学生自身が手を動かしながら学ぶアウトプット型の授業方法、毎回の課題等は全員にフィードバックをおこなうとともに課題をクラウドベースの学修を管理するシステムで積み上げる方法、グループワークで学生同士が相互に学び合う方法、そして学生自身で授業の振り返りを実施する方法を工夫として取り入れている。また、履修指導の一環として、学期半ばに得点率が60%に満たない学生に対して個別フォローを実施している。授業は授業内容の説明および授業の管理をする講師1名と、学生のグループおよび個別の指導をする担任講師複数名でクラスを構成しており、学生に対し手厚いサポートを実現している。</p>
⑤成績評価、単位認定及び単位付与を適切に行っているか。	<p>【AI副専攻(AI活用エキスパートコース)】                      前記科目の単位修得を修了要件として設定しウェブページで公開しており、単位制度の趣旨に沿った単位認定がなされている。</p> <p>各科目は100分×14回の授業、および毎回65分程度の事前学修や65分程度の事後学修として構成しており、単位制度の趣旨に沿った単位認定がなされている。成績評価は、毎回の授業内課題や予習復習課題に対して評価基準を定め、各クラスでその基準に基づいた毎回の評価を実施し、そしてその積み上げとして客観性と厳格性を担保した評価をしている。</p>
⑥単位付与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	<p>【AI副専攻(AI活用エキスパートコース)】                      単位付与方針に明示した学生の学修成果は、毎回の授業内課題(最終回は総合的な最終課題)として把握及び評価している。また、全学で実施している受講生を対象とした授業リフレクションを用いて、学生の理解度を測定している。結果、学生の理解度に関して、AI副専攻の科目は4段階尺度の3段階目または4段階目が最頻値であった。また、各週の授業時間外の学修時間は、「2時間～4時間未満」または「4時間以上」が最頻値であり、授業時間外の学修に関しても確認している。</p>
⑦教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	<p>【AI副専攻(AI活用エキスパートコース)】                      授業に携わった科目責任教員やクラス担当教員が年2回のFD研修会および開講期間中は毎週定期的に集まり、教育の内容や方法、そして成績評価に関する振り返りを実施して、次年度に向けた改善に活かしている。</p> <p>教育プログラムの内容や手法等を学会発表し、他大学の教職員や産業界の方々からの意見を収集し、本教育プログラムの改善に活用している。また、本学では学外有識者を構成員とする外部評価委員会を年1回以上開催し、企業の代表取締役等が本学の教育体制、運営体制、教育の成果について確認を行っている。産業界から見た本学の教育プログラムの将来性など、企業人ならではの視点から本学の教育運営体制に関する広範な課題等の意見・評価をいただいている。こうした外部評価を実施し、顕在化した課題に対応してPDCAサイクルを回していくことで、教育の客観性や妥当性を担保し、教育水準の更なる向上を図っている。</p>